

○昏暮の禮拜

南無阿彌陀佛

三禮

「至心に感謝す」

大慈悲に在ます我らが如來よ。如來が與へ給へる明き

光と清き滲氣と新らしき糧とに依て今日一日の務めを

果したる恩徳を感謝し奉つる。又如來の神聖と正義と

おんちよう ひかり  
恩寵この光明を被むり今日聖意に契ふ務めを得たりし  
まつた みめぐみ しか  
は全く聖寵の然らしむる處 深く其の恩徳を感謝し  
たてま  
奉つる

によらい こうみようたん とくしよう  
如來光明歎徳章

ほとけあなん つげ  
佛阿難に告たまはく。○ 無量壽如來の威神光明最尊第  
むりようじゆによらい いじん こうみよう さいそんだい

一いちにして諸佛しよぶつの光明こうみやう及およぶこと能あたはざる所ところなり 是故このゆえ

に無量壽如來むりようじゆにょらいを無量光佛むりようこうぶつ 無邊光佛むへんこうぶつ 無礙光佛むげこうぶつ

無對光佛むたいこうぶつ 燄王光佛えんのうこうぶつ 清淨光佛しやうじやうこうぶつ 歡喜光佛かんぎこうぶつ

智慧光佛ちえこうぶつ 不斷光佛ふだんこうぶつ 難思光佛なんしこうぶつ 無稱光佛むしやうこうぶつ

超日月光佛ちやうにちがつこうぶつと號ごうし奉たてまつる。其それ衆生しゆじやう有ありて斯光このひかりに遇あふ

ものは三垢消滅さんくしやうめつし身意柔輒しんいにゆうなんに歡喜かんぎ踊躍ゆやくして善心ぜんしん生しやうぜ

む 若三塗勤苦の處もしさんずごんくところにありて此の光明ここうみょうを見みたてまつ

らば皆休息みなくそくを得えて亦苦惱またくのうなく壽終じゆじゆうの後皆解脫のちみなげだつを蒙こうむら

ん。無量壽如來むりようじゆにょらいの光明ここうみょう顯赫けんかくにして十方じつぽうを照耀しやうようす諸しよ

佛ぶつの國土こくどに聞きこえざることなし但ただ我今われいまそのこ其光明ここうみょうを稱しよう

するのみにあらず一切いつさいの諸佛しよぶつ聲聞しやうもん緣覺えんがく諸もろもろの菩薩衆ぼさつしゆも

咸ことごとく共ともに歎譽たんよしたまふこと亦またまた是かくの如ごとし。若衆生もししゆじやう

ありて其そのこうみよう光明の威神いじん功德くどくを聞きて日夜にちやに稱説しょうせつして至し

心不斷しんふだんならば意こころの所願しよがんに隨したがひて其國そのくにに生しょうずることを

得えて諸もろもろの菩薩ぼさつ聲聞しょうもん大衆だいしゆに共ともに歎譽たんよして其功德そのくどくを稱しょうせ

られん其然そのしこうして後佛道のちぶつどうを得うる時ときに至いたりて普あまねく十方じつぽう

の諸佛菩薩しよぶつぼさつに其光明そのこうみようを歎たんぜられんこと亦またいま今の如ごとくな

らむ佛ほとけの言のたまはく我無量壽われむりようじゆ如來によらいの光明こうみよう威神いじんの巍ぎ々ぎ

殊妙しゆみようなることを説とかんに晝夜ちゆうや一劫いつこうすともなほ未いまだ盡つくす  
ここ能あたはじ

「至心ししんに懺悔さんげす」

法身ほつしんと智慧ちえと解脱げだつの○三徳さんとくを備そなへ給たまふ如來によらいに告白こくはくし奉たてま  
つる 自身じしんは現げんに是これ罪惡ざいあくの凡夫ぼんぶ 心こころの至いたらざるより  
して作なす可べからざる罪つみを造つくり 作なすべき事ことを怠おこたるの罪つみに

陥おちいれり 是これ皆みな自みずからの過あやまりなり 實げに大おおなる過あやまり

なるこかんこを感かんじて 至し心しんに懺さん悔げし奉たてまつる 今いまより後のちは

悔くい改あらため邪よこ惡しまを捨すて正ただ善しきに就つかんこちかこを誓ちかひ奉たてまつる

願ねがくは恩みめ寵ぐみに依よりて再ふたび過あやまりに陥おちるこなこ無ただく正ただしき人ひとと爲な

さしめ給たまへ

「しん至心さんらいに讚禮す」

なむむりようじゆぶつ南無無量壽佛

ほんぬほつしんあみだそん本有法身阿彌陀尊

あとじつこうたまし迹を十劫に垂れ在し

ほんじやくふに本迹不二なるれいたい靈體の

むりようじゆおうきみよう無量壽王に歸命せん

なむむりようこうぶつ南無無量光佛

じつぽうさんせいいつさい十方三世一切の

ほつぽうおうほんじ法報應の本地なる



獨尊統攝歸趣どくそんとうししよくしゆに在ます

無量光むりようこうを頂禮ちようらいす

南無無邊光佛なむむへんこうぶつ

如來無邊にょらいむへんの光明こうみやうは

四大智慧しだいちえの相すがたにて

徧あまれく法界照ほつかいてらしては

衆生しゆじようの智見ちけんを明あかすなり

南無無礙光佛なむむげこうぶつ

如來無礙にょらいむげの光明こうみやうは

神聖正義しんせいせいぎ恩寵おんちようの

靈徳不思議の力にて

衆生を解脱し自由とす

南無無對光佛

絶對無限の光明に

攝化せられし終局には

諸佛と等き覺位をえ

大般涅槃に證入す

南無燄王光佛

衆生無始の無明より

惑と業苦の極なきも

大饑王の光にて

一切の障り除こりぬ

南無清淨光佛

如來清淨光明に

我等が塵垢は滌がれて

六根常に清らけく

姿色も自づと潤ほるれ

南無歡喜光佛

如來歡喜の光明に

我等が苦惱は安らぎて

禪悦ぜんねつ法喜ほうき微妙みみょうなる

喜樂きらく極きわなく感かんずなり

南無なむ智慧ちえ光佛こうぶつ

如來にょらい智慧ちえの光明こうみょうに

我等われらが無明むみょうは照てらされて

佛ぶつの智見ちけんを開示かいじして

如來にょらいの眞理まこと悟さと入らるれ

南無なむ不斷ふだん光佛こうぶつ

常恒じょうごう不斷ふだんの光明こうみょうに

我われらが意志こころは靈化れいかせば

作佛度生の願みもて

聖意現はす身とはなる

南無難思光佛

甚深難思の光明を

至心不斷に念ずれば

信心喚起の時いたり

心の瞇瞳とは成ぬべし

南無無稱光佛

如來の慈光被むれば

七覺心の華開らき

神秘しんぴの靈感れいかん妙たえにして

聖きよき心こころによみがへる

南な無む超ちよう日月にちがつ光こう佛ぶつ

智ち悲ひの日月ひつきの照てらす下もと

光ひかりの中なかに生活くからす身みは

聖み意むねを己おのが意こころとし

三さん業ごう四し威い儀ぎに行つとむ爲むなり

「光明こうみよう攝取せつしゆの文もん」

如來にょらいの光明こうみようは(\*)遍あまねく十方じつぽうの世界せかいを照てらして念佛ねんぶつの

衆生しゆじやうを攝取せつしゆして捨すて給たまはず

「念佛ねんぶつ三昧さんまい」

「次に總回向そうえこうの文もん」

願ねがはくは此功德このくどくを以もつて④平等一切あまねくいつさいに施ほどこし同おなじく菩提ぼだい  
 心しんを發おこして安樂國あんらくこくに往生おうじやうせん

「至心に回向す」

至善しいぜんに在まします如來によらいよ。我われらは曾かつて心こころ闇くらくして如來によらいの在まし

ますここを識しらざりき。然しかるに如來みおやの大だい悲ひ招し喚しょうの聲みこえに

驚おどろきて至心ししんに如來によらいに歸依きえし奉たてまつれり。願ねがくは我われらを

無限むげんの光明ひかりの中なかに永遠えいえんの生命いのちを與あたへ給たまへ。又また願ねがはくは

上かみは如來によらいの聖寵みめぐみを被こうむり。下しもは一切すべての同胞どうほうに聖寵みめぐみを頒わかつ



ここを得しめよ 又我等を悪魔の誘惑よりさけて聖き

道に向上むここを得しめよ 又聖意を世の同胞にしら

しめて聖きみ光の中に共に安寧を得むここを希がひ

奉つる

南無阿彌陀佛

三三禮

如來光明禮拜式

終



如來はことに大慈悲ふかくましますれば、つねに衆生を愛念し給ふことしばしもいとまはましますまにぞ、あくがるゝ子の憶念のなかに、如來の宛ながら聖き靈なるみすがたは、心眼の前にあらはれ給ふことのかにありがたきぞや。之を念佛三昧と名づく。但し行住坐臥つねに如來を憶ふこと、子の母をおもふ如くにてあれば、現在當來遠からず佛を拜見したてまつる。

衆生本心は憶念すべし  
佛の本心は衆生を憶念すべし



佛地作